

COMPASS

中小企業のIT活用情報をわかりやすく紹介

Summer 2017 夏

特集

事業継続への挑戦に
IT/OT/AIはどのくらい関わるのか
未来を選ぶ時がきた



中小企業庁
プラスITフェア開催レポート
プラスITセミナー紹介

FOCUS 働き方改革とクラウド活用

支援機関
活動紹介 鹿児島県よろず支援拠点

連載・寄稿

- ネット社会との「お付き合い」術
- ドローンのビジネス活用
- 成長を目指す中小企業経営者のための「FileMaker」活用術

compass:羅針盤(儀)=指針・方向性
<https://www.compass-it.jp/>

COMPASS [コンパス] 2017年夏号
平成29年5月15日発行

株式会社 リックテック

TEL: 03-3834-8059

発行人: 土岡正純

編集人: 石原由美子

頒布価格: 本体360円+税

brother
at your side

あなたの
ビジネスに、
たよれる相棒を。



長く使えて安心の高耐久モデル登場。

高耐久 約60万枚^{※1}

高速プリント 約50枚/分^{※2}

JUSTIO
プリンター・複合機



MFC-L6900DW



MFC-L5755DW



HL-L6400DW



HL-L5200DW



HL-L5100DN

※1 MFC-L6900DW、HL-L6400DWのみ対応。※2 MFC-L6900DW、HL-L6400DWのみ対応。用紙サイズはA4。標準給紙トレイからの場合。用紙サイズやデータ量により遅くなる場合があります。

ブラザーコールセンター
[プリンター]

050-3786-8871

[複合機]

050-3786-8881

詳しくはインターネットのキーワード検索で

ジャスティオ

検索

受付時間: 9:00~18:00 (月~土) *日曜日・祝日・弊社指定休日を除きます。

ブラザー販売株式会社
<http://www.brother.co.jp/>

速報 中小企業庁が進める IT 活用支援策

来場1万8000人！活況だった「プラスITフェア」
次は全国100か所の「プラスITセミナー」でIT導入への一歩を



中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課（イノベーション課）

課長 高倉秀和氏（写真右から二人目）
「次の100か所セミナーを、IT活用と改革のきっかけに」

課長補佐 高橋隆氏（左から二人目）
「多くの支援機関と連携し、オールジャパンで支援」

技術支援一係長 鈴木勇人氏（右）
「フェアの実感・成果を前進させる次の施策を検討中」

為房大治氏（左）
「地域に浸透しつつある手ごたえを、セミナーにつなげたい」

中 小企業庁は、平成28年度の補正予算にて、IT活用支援策を大幅に強化している。3月の東京を皮切りに、4月には全国9か所でIT活用総合イベント「プラスITフェア」を開催した。担当課である中小企業庁技術・経営革新課（イノベーション課）の高倉秀和課長はその様子を次のように説明する。

「プラスITフェアは、目標1万人のところ、80%増の1万8000人の来場がありました。各会場は活気があり、ITツールのブースで熱心に話を聞く方も見られ関心の高まりを感じました」

同イベントは、基調講演やIT導入企業へのインタビュー、IT導入補助金説明会などのステージプログラムのほか、ITツールの展示、よろず支援拠点の出張相談、ITコーディネータによるIT活用相談ブースなどもあり、1か所で気軽にかつ総合的に情報を得られるのが特徴である。さらに個人情報保護法の改正

やIoT/AIなど旬な情報もカバーした。

商工会議所等が開催するセミナーは100か所で

ここにてIT活用支援策を強化した理由について、高倉課長は、「1年ほど前から意識してきたIT関連施策ですが、ITが使いやすくなり導入のハードルが下がり、生産性を高めたい企業が上手な活用をすれば、商売繁盛につながる点で、人手不足や事業承継などの課題を解決する重要なツールになっているからです」と説明する。

5月からは、プラスITフェアの趣旨を踏まえつつ、さらに具体的にIT活用方法を学べる「プラスITセミナー」を全国100か所にて開催する。商工会議所・商工会がその組織力を活かし、地域の企業を集客する（会議所の会員か否かに関係なく、どのセミナーでも参加できる）。

内容は、経営者向けの気づきセミナーと、担当者向けのテーマ別

ワークショップ（複数コース）があり、実施機関が地域事情に即して選択する。

このほか、ITツールの導入費用を補助する「IT導入補助金」は6月30日まで受付中。専門家は無料で3回までIT活用の相談ができる枠を拡大している。

高倉課長は、「プラスITセミナーにぜひ足をお運びいただき、最新のITツールや他社の事例情報を参考に、IT導入に踏み切るきっかけにいただければ幸いです」と呼びかけている。

平成28年度補正予算による中小企業向けIT活用支援策

- **プラスITフェア**（IT活用を実感する総合イベント）
…全国10か所開催（終了）
- **プラスITセミナー**（IT活用の実際を知るセミナー）
…全国100か所で5月からスタート
- **IT導入補助金**
…IT導入にかかわる費用を補助する制度 6月30日締切
- **専門家派遣** …ITにかかわる相談枠を増加

*詳細は18、19ページに記載しています。

プラスITフェア名古屋会場



国際的に権威あるデザイン賞「iFデザインアワード2017」にて、タニハタの組子が最高賞の金賞を受賞！
「Textiles/Wall/Floor」分野での金賞受賞は日本初の快挙
なぜ苦境を乗り越えることができたのか

増刷決定

谷端信夫 株式会社タニハタ 代表取締役社長

世界に響け 職人の心意気

中小企業の生き方がここにある

大きな危機を乗り越え、一度は消えかかった伝統工芸「組子欄間」を復活させ
新たな販路を開いた、富山の小さな組子メーカー・タニハタ。
苦難の中で社長を奮い立たせたのは、ネットから届く顧客の声、そして職場から聞こえる玄翁の音だった。

安定した業界が存在しなくなった現在、タニハタと同様の事態はどの企業にも起こりうる。大切なものを守りつつ、会社を存続させるために我々は何をすればよいのか。

失敗や苦悩、希望と気概を経営者が正直に綴った書。

目次	第一章	職人の仕事ぶりは「音」でわかる
	第二章	和から洋へ——組子を残すための決断
	第三章	背水の陣で臨んだインターネット
	第四章	追い詰められたものづくりの現場
	第五章	今こそ「和」を取り戻す
	第六章	ネット時代、中小企業が大切にしたいもの
	第七章	海を越える！ 職人魂



四六判・216ページ
本体価格：1400円＋税 ISBN：978-4-89797-894-9

お求め・ご注文は
お近くの書店・ネット書店へ
お願いいたします。

反響続々

著者の半生を追体験しながら、時代の変化の中で自分は会社とどう関わるか、何を大切にしたいのかを考えさせられた。「生きる力」を底上げしてくれる本。（会社員・女性）

こんなにも赤裸々に、「中小企業経営者の気持ち」を綴ったモノガタリはないと思います。本を読みながら何度もエールを送りました。たくさんの経営者に読んで欲しい。（経営者・男性）

必死で生業をぐり抜けてこられた著者の「生存記録」である。小規模企業やホームページで通販をしようとしている経営者に苦しい今を通り抜けるための覚悟の程と、薄明かりの道を示した本である。（専門家・男性）

弊社に直接書籍をお申し込みの場合は、下記へご連絡くださいますようお願い申し上げます。
（送料400円を頂戴いたしますが、「COMPASSを見て」とお書きくだされば送料無料で送ります。）

株式会社 リックテレコム 電話：03-3834-8380（10時～17時30分）
<http://www.ric.co.jp/>

1	巻頭レポート 中小企業庁のIT活用支援策 中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課(イノベーション課)
特集	
4	未来を選ぶ時がきた 事業継続への挑戦にIT/IoT/AIはどう関わるのか 事例 そうえん農場(新潟県)、ビック・ママ(宮城県)
7	寄稿 桜井俊秀氏 ドローンのビジネス活用への挑戦
8	経営改革事例① 机上の生産計画を「計画生産の実施」へ 改革の一步は機械の稼働状況把握から 宮城県大崎市・製造業 光電子 経営改革事例② 顧客との接点を商品開発・提案にどう活かす? ネットでも電話でも一対一のおもてなし対応を 岡山県岡山市・医療用品製造販売 ダイヤ工業
12	サービス紹介 IoTを使い始めよう 「できたらいいな」の実現に向けて! フィールドトライアルやロボット活用事例を紹介
17	支援情報瓦版 ・中部IT経営力大賞、補助金情報、プラスITフェア、プラスITセミナー ・よろず支援拠点訪問 鹿児島県よろず支援拠点(公益財団法人かごしま産業支援センター) 事例紹介 ①マタニティ整体 Happiness ②Aroma Luna
16	連載 ネット社会との「お付き合い」術
22	FOCUS 働き方改革とクラウド活用 ツール紹介① 働き方改革は、人材採用にも効果! これ一つで経営者も社員も一歩を踏み出せる ツール紹介② 今や複合機もクラウドにつながる時代 ダイレクト保管で仕事の効率がぐんと上昇 ツール紹介③ 働き方改革の第一歩は勤務時間の正確な把握 総務部門から仕事を効率化しよう
26	連載 成長を目指す中小企業のためのFileMaker活用術 ITC総合研究所 FileMakerによるシステムの再構築(上)
27	トピックス

IT導入で商売繁盛!

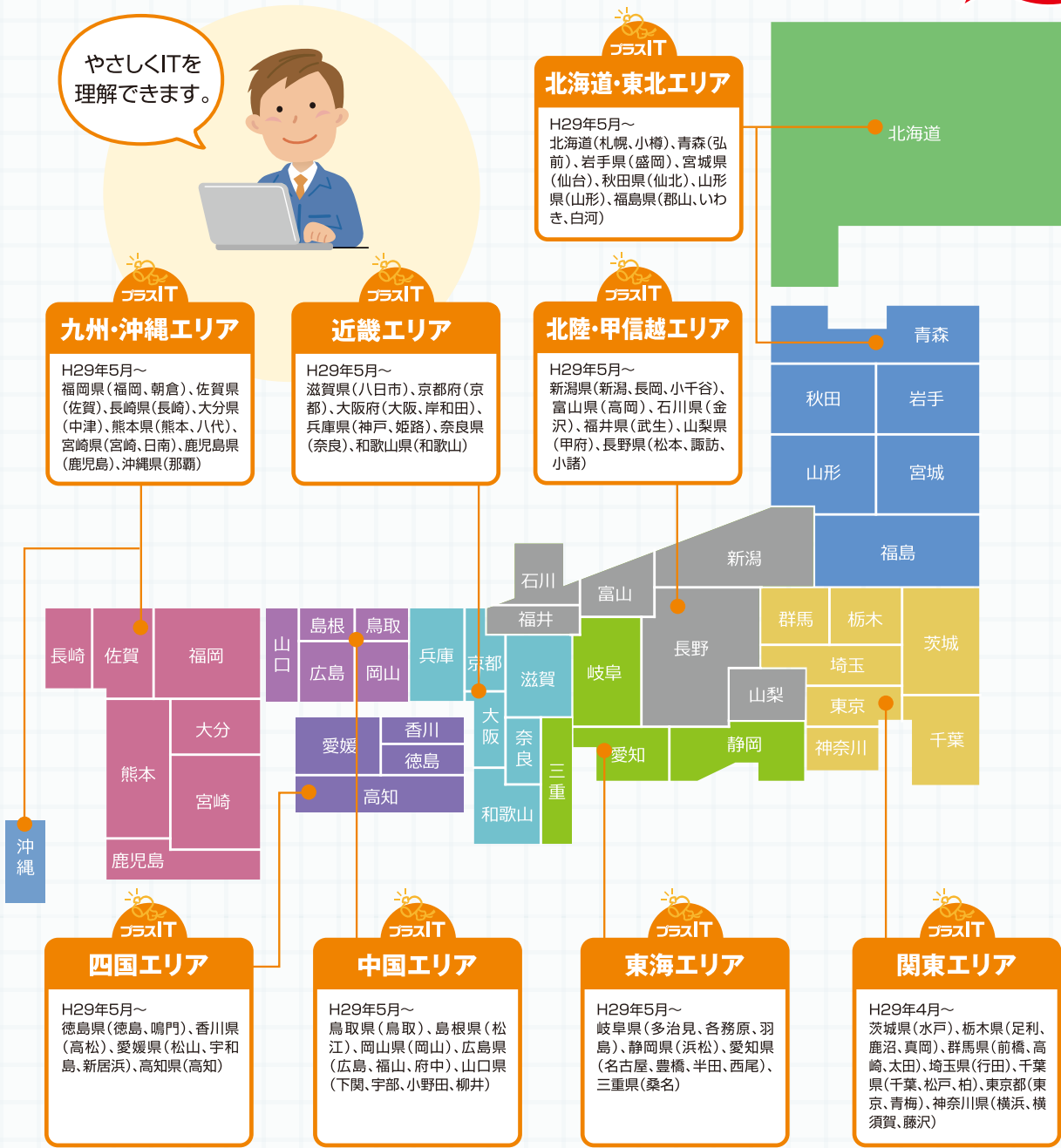
プラスIT

セミナー

あなたの職場を『プラスIT』で商売繁盛に!

全国100箇所で行われるITセミナー・ワークショップのご案内

参加無料



詳細はこちら ▶

http://it-seminar.go.jp

【お問い合わせ】

にっぽん全国IT経営力強化塾事務局(富士ゼロックス株式会社 公共営業統括 公共第一営業部内)

✉ jimukyoku@fujixerox.co.jp

☎ 03-3584-2774

📠 03-3584-5579

企業を取り巻く環境が刻々と変化している。
歴史ある百貨店が閉店したり、ネットによる個人の売買が急速に伸びりサイクル店を脅かしたり。技術の進歩、競争環境の変化、労働人口の減少はスピードが速く、現在の仕事を同じように進めているだけでは自社の将来を描きにくくなっている。

「今のまま行けるところまで行く」選択肢もあれば、「変化を乗り切るために変化する」方法もある。どちらを選ぶのも自由だが、選ぶ時が近づいている。

継続するために必要な変化と新技術の活用

「企業は継続が大切。そのために変化し、改革を行っています」IoT/AIに象徴される新しいITを取り入れ改革を進める宮城県・光電子の佐々木修社長と岡山県・ダイヤ工業の松尾正男社長は、ビジネス形態は違えども「継続」を意識した経営に共通項がある。そして、「継続するためには挑戦が必要」との姿勢が一貫している。

光電子は、製造機械の停止が生産計画の実現を妨げるとの課題意



IoTとAI

IoT…Internet of Things モノとモノがインターネットでつながり、各種センサーやカメラからのデータを収集・活用して指定の動作を自動的に行うこと。

AI…人工知能。コンピュータが自ら法則性などを学び取り、認識や判断を行うこと。あらかじめ厳密な条件指定をしない点で自律度が高い。

識から、IoTを使ってリアルタイムに機械の稼働把握ができる仕組みを構築した。データをもとに対策を講じ、生産性を上げようとしている。

ダイヤ工業では、顧客の購買履歴を徹底分析して最適商品を勧められるシステムにより売上を伸ばしている。さらに、AIを使ってコールセンターでの会話をもとに最適商品を提案する仕組みを構築する意向だ。同社は、自社製品の研究開発においてもAIの活用を検討している。

会社を継続させる観点で外部環境を見ると、新しい技術は自然と視野に入り、生産性向上や労働人口減少への対応、新商品の開発に欠かせないものになってくるのだ。今、直接適用分野がない業種

も、競争環境や顧客の動きが変わるので、大きな変化として意識しておきたい。

人をサポートするIoT 働きやすさの向上にも

現在、中小企業で活用され始めているIoTやAIの分野を整理してみよう。

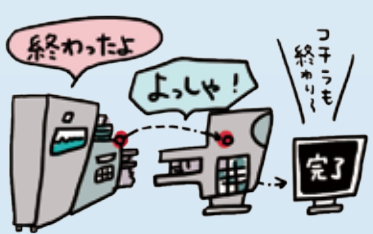
これまでのITは人が端末を操作していたが、モノとモノがインターネットにつながることで、人が指示をしなくても自動的に動作が進む点に特徴がある(IoT)。さらに、事前に人が条件設定を行わなくとも、コンピュータが自ら「学習」することによって、判断の一部を任せることができるよう(AI)。

そこでまず考えたいのは、人手のかかる、人に負担がかかっている仕事を代替する用途である。

例えば、仕事場が点在しているIoTの活用で負担が軽減できる。新潟県のそうえん農場では、水田にセンサーを設置し、水温や水の量を定期的に記録するシステムを活用。水の量が一定値を下回った田んぼから足を運ばよいのので、毎日の見回り時間を大幅に

削減することができた。

さらに、宮城県のビック・ママは、経営する保育園で、乳児の睡眠中の事故を防ぎ、保育士が安心して働ける環境づくりに、睡眠中の動きをカメラで把握し、動きが少なかつたりうつぶせ寝になったらランプとメロディで知らせるシステムを構築した。

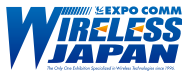


IoTやAIが活用できる分野のイメージ		
	人手や負担がかかる仕事を代替させる	難しい分析を実行させ、結果を利用する
従来からの業務	例) 温度や湿度の管理、見守りなど	例) コールセンターでの会話を分析し、最適商品の提案など
新商品・サービスの開発	例) エアコン故障を自動把握して修理サービスを行うなど	例) 救急度の自動判定による救助サービスなど

特集 未来を選ぶ時がきた

事業**継続**への挑戦に IT/IoT/AIはどう関わるのか

IoTやAIの用語を目にしない日はないくらい、「新しいIT活用」についての情報が飛び交っている。これらの技術に着目する経営者には、現実を見据える眼と、会社の継続への強い思いがある。



IoTの今を
実感できる
イベント

ワイアレスジャパン

5月24日～26日 東京ビッグサイトにて

スマートフォンやウェアラブル、Bluetoothなどの近距離無線技術と各種センサー、またサーバー・クラウドにデータを送り出す広域ネットワークとモバイルインフラなど、IoT/ワイアレス/モバイルの技術、製品、サービスが一望できるイベント。

本誌12ページから掲載しているNTT東日本のIoTトライアル事例も詳しく紹介。
<http://www.wjexpo.com>

特別寄稿 ドローンでスズメバチを退治！

高所作業ニーズは高い

毒性のあるスズメバチは、ハチの巣の除去を自治体などに依頼するケースが多々あり、結果として蜂のプロである「養蜂業者」に駆除依頼がきます。樹木や構築物の軒下など高所作業を要し、多分に

私たちは「地方からドローンで新たな風を起こそう」と、有志を募って昨年(平成28年)3月末に株式会社Queen Bee And Droneを設立し、「JUIDA(日本UAS産業振興協議会)認定ドローンスクール静岡」を毎月定期的に開講しています。

スクール事業と並行して、スクール受講生や卒業生とのビジネスマッチングや交流を積極的に行っており、その中からドローンを活用したアイデアや情報が数多く寄せられるようになりました。

その一つが、現在事業コラボレーション進行中の「スズメバチ駆除ドローン」開発です。



執筆
株式会社 Queen Bee
And Drone
取締役 桜井俊秀氏

「多大な設備投資はできない」という条件が提示されたこともあり、低コストで開発可能な目標を設定。その結果、シンプルな構造にもかかわらず所期の目的を達成可能にする試作機が出来上がりました。

図のように、ドローンに設置されたカメラからスズメバチの位置を確認し、遠隔からスプレー缶を操作してスズメバチの巣に噴射します。

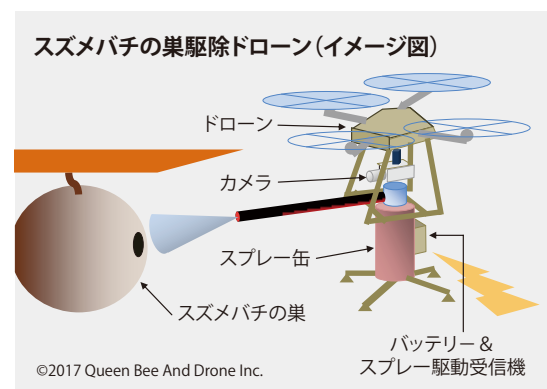
試験飛行からスズメバチの巣駆除実験を目指すとともに、4月下旬には特許出願も果たしました。

「危険な高所作業を低コストな方法で回避したい」とのニーズがあり、また、ここには、「防災リスク回避」「コスト低減要請」、ひいては「人手不足解消」という多くの企業が抱える課題を解決するヒントが隠されています。

現在、ドローンは、空撮、農業散布、土木測量、構築物あるいは災害の現状調査などに実用化され、今後は物流や離島などへの物

危険が伴うため、養蜂家や農家などの間で問題視されていました。

そこで浮上したのが「ドローンを使ったスズメバチの巣の駆除」です。



資輸送など法律や交通インフラの整備が前提になる分野への参入も喧伝されていますが、その多くは、未だに「実証実験」の状態です。

中小企業としては、できる範囲の技術の組み合わせと加工技術の有する企業とのコラボレーションにより、「地に足の着いた開発」を実現することが重要です。

それには、日常的なビジネスコラボレーションが欠かせません。弊社では、ドローンスクール静岡を単なるドローンの操縦技能習得の場に限定せず、ビジネスマッチングを通じて地方発展の拠点とすべく活動していきます。

新しいITを使う① 水田の見回り時間を半減しつつ生産量20%アップ 新潟県 そうえん農場

「人と同じで田んぼは1枚ずつ癖がある。水持ちや水はけの良さが異なるので、水量調節は時間のかかる大事な仕事です」

新潟県新発田市にて、家族4人で農業を営むそうえん農場の下條莊市氏は、現場の様子をこう語る。

この、水田の見回り作業時間を半減させたのがIoT&クラウド型の水田管理システムである。

田んぼに設置したセンサーが1時間ごとに水温や水位、湿度などのデータを送りサーバーに蓄積。集計されたデータはタブレットやスマホなどでいつでも確認できるので、水位の調整が必要な田んぼを選んで作業を進められるようになった。削減できた見回り時間は別の作業に充てられるようになり、同じ人数で生産量を20%増加させることができた。

「1年蓄積したデータを見ると面白い。



いろいろ見えてくるものがあります。トラクターの自動運転もいずれ実用化しますし、農業はIoTやAIの活用が一気に進むでしょう」と話している。

こうした仕組みは働きやすい職場環境づくりに貢献する。

さらに、人の操作が伴うが、無人飛行機「ドローン」も、人が近づけない場所での仕事を代替するツールとして期待されている。静岡では、スズメバチの駆除にドローンを活用する試みが進められている

(寄稿欄参照)

人の役割定義と育成が次の課題に

このように、そこに人がいなくても、センサーやカメラによって状態をデータで把握できるシステムに条件に応じたアクションを定

新しいITを使う② 保育園の乳児見守りサポート 宮城県 ビック・ママ

生後2か月～6か月の乳児は乳幼児突然死症候群(SIDS)を起こす危険が高いが、予防の手段がなく、保育園では5分おきの見守りが推奨されている。

宮城県のビック・ママでは、経営する保育園にて、見守りをサポートし保育士の

心理的な負担を軽減するシステムを考案した。

睡眠中の乳児をカメラでとらえ、サーバーに蓄積。5分間動きがなかったりうつぶせ寝になったと認識したら、ランプとメロディで知らせ、事故防止に役立てる。



※トライボットワークス社の発表資料より

めておけば、かなりの部分を代替できる。田んぼの水加減などは最終的に人の判断が伴うから、どこまでを機械に任せてどこを人がするか、その切り分けが重要になってくるだろう。

労働人口が減少する時代を迎え、限られた人員で最大の成果を上げる取り組みは不可避である。

さらに言えば、機械ができる作業は機械に任せ、人だからこそのできる仕事に集中させることが求められる。

ただ、業務の細かいプロセスを知らなくても結果に早くたどり着ける仕組みは、人の中に経験やノウハウを蓄積しにくい懸念もある。肌感覚が弱く、データがない

机上の生産計画を「計画生産の実施」へ 改革の一步は機械の稼働状況把握から

宮城県大崎市・製造業 光電子の場合

IoTの活用

株

主は社員——平成元年（1989年）にコイル製品等のメーカー東光より分社独立した光電子（宮城県大崎市）は、それまでの事業・生産設備を維持しつつも、「自主・自立した工場」を目指している。

言葉に込められた意味を、佐々木秀社長は次のように説明する。「依頼されたものを作るだけの工場では生き残りが難しい。製造ノウハウを蓄積し、コストや利益

代表取締役社長 佐々木秀氏

をきちんと管理し、改善を実行できる会社を目指しています」

生産性を上げるには「チョコ停」対策が必要

生産性を高める取り組みの一つに「工数シェアリング（助け合い）」がある。いつの間にかできてしまった「城」部門の壁を越え、特定部門に仕事が集まった際に他部門から応援に行ける体制づくりだ。皆で問題解決を進められる意識改革を行っている。

生産現場では、経年した機械が時々止まり修理の間稼働できない点（チョコ停）が課題であった。佐々木社長は「生産計画をきちんと実行して計画生産を進めること」を重要視していたが、機械が停止すれば計画は絵に描いた餅となり、生産量が低下してしまう。そこで設備保全グループマネー

会社概要

光電子株式会社

- 宮城県大崎市岩出山上野目字中川原14-7
- 設立：1989年（東光株式会社より分社独立、社員が出資し設立）
- 従業員数：80名
- 事業内容：コイルを主体とした電子部品と製品の設計、製造、性能評価等
- URL：http://www.hikaridenshi.co.jp/



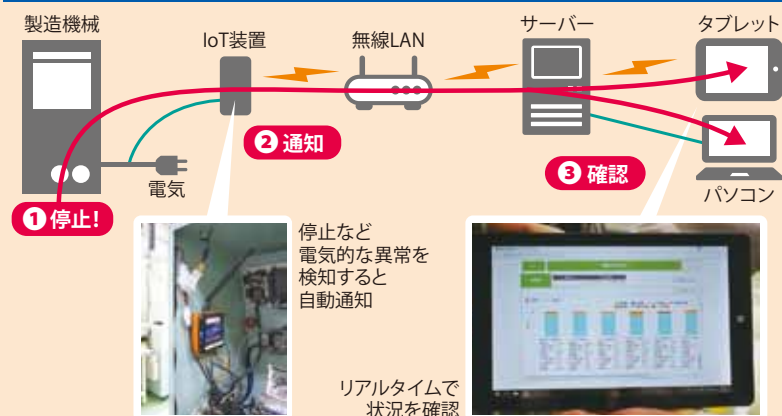
設備には手を入れず 電気信号を横取り

どこの会社ならシステムを作れるのか。NPO法人未来産業創造おおさきのコーディネータからの紹介で2015年12月に出会ったのが、仙台市のITベンダーコー・ワークスであった。

ただ、工場の機械は東光からのレンタルであるため、機械に手を加えることができない。コー・ワークスは、約2か月間の調査・トライアルを実施。機械が停止した時にランプが赤に変わることや、機械を制御するPLCから設備に影響なく電気的な変化のデータを取れることを突きとめ、「既存設備に手を加えずにデータを横取りできる」（コー・ワークス）IoTシステムを考案した（左上図）。機械の状態変化をIoT機器が



光電子の製造機械稼働把握IoTシステム



⇒ 機械の稼働状況が把握できた
⇒ 次は、「自動監視」や「計画生産の実施」へ



設備保全グループ
マネージャー
坂元真彦氏

「データが見えたことで現場の意識も変わってきています。今はタブレットで見えています。工場にモニターを置いて皆で見られる仕組みも考えた」とのことである。

自主・自立した工場へ 見える化で意識も高まる

タイムリーな稼働把握によるスピーディな故障対応が実現でき、また機械ごとの特性を掴んだうえでの対策がしや

ら自動的にサーバーに送り蓄積。収集されたデータは整理・グラフ化され、タブレットやパソコンなどのブラウザでリアルタイムに把握できる。業務分析においては、製造業に対して経験豊富でIoTスペシャリストでもある独立系ITコーディネータの協力も仰いだ。

この仕組みは2016年12月より稼働を開始した。Web技術を使用しているが、セキュリティ対策を考慮し、運用は社内サーバーで行っている。

「チョコ停が起きたらすぐにデータを確認できるようにしました。また、日々の監視に加え、月単位で集計し、機械ごとの特徴や原因分析などを進めています」と坂元氏はシステム稼働後の様子を語る。

佐々木社長はデータをもとに稼働率を上げる対策や老朽化した機械の改良などを進め、ゆくゆくは自動監視を実現して少ない人数で24時間稼働できる工場を目指したいという。

データを得たことによる手ごたえと今後の方向性について、佐々木社長は次のように語った。「まだ入口ではありますが、



写真左から、システム開発事業部 南部高正氏、
エンベデッド事業部 部長 白田正樹氏、
ITコーディネート事業部 部長 武田修氏

田修氏がプロジェクトマネージャーとして構築目的や仕様を理解してプロジェクトを推進。電気設備から信号を読み取りデータ化するための設備仕様確認やハードウェアの開発を白田正樹氏、サーバー側のプログラム開発を南部高正氏が担当。チームプレーで2016年12月にシステムを完成させた。

佐々木社長は、「現場に足を運び実証を重ねて、責任を持って進めていただきました。制約条件が多い中で、100%の対応だと思っています」。

<URL> http://co-works.co.jp/

サポーター紹介 株式会社コー・ワークス



代表取締役
淡路義和氏

機械の稼働状況をリアルタイムでモニタリングするIoTシステムを構築したのが、コー・ワークスである。

同社は、ITコーディネート・ソフトウェア開発・ハードウェア開発・事業プランニング・情報デザインなど枠にとられない「様々なモノ・コトづくり」のサポートをポリシーとする。働き方改革分野でも事業活動を推進中。

また淡路社長を筆頭にITコーディネータの資格を持つスタッフが多く、経営や業務を理解してIT活用を推進できることが強みでもある。

光電子のIoTシステム構築では、武

顧客との接点を商品開発・提案にどう活かす？ ネットでも電話でも一対一のおもてなし対応を

岡山県岡山市・医療用品製造販売

ダイヤ工業の場合

顧客との関係強化

ウェルネス(Wellness)
——この言葉がピッタリくる健康感あふれる明るい建物には、ジムや新鮮野菜が食べられるレストランも備える。医療用品を企画製造販売するダイヤ工業(岡山県)のオフィスである。

全国3万軒の接骨院を通じて骨盤用コルセット「バリアツイスト」など独自開発した健康サポート商品販売しているが、1963年の創業時、同社は「イ草のスリッパ」を製造していたという。

「経営は継続するのが一番大切です。事業にはサイクルがあります。」



代表取締役社長 松尾 正男氏

すから、積極進取の精神で変化を続けています」

2代目社長の松尾正男氏は経営方針をこのように話す。

接骨院の先生が勧めたくなる付加価値の高い商品づくり

販売ルートは、試行錯誤の末、医療保険適用で薬価が低価格化している病院より、自由診療で独自の特徴を出せる接骨院との直接取引を選んだ。「患者に勧めたくなる商品」を提供し、ともに成長していくとの考え方だ。

それゆえ、ダイヤ工業では接骨院の先生方の声を何よりも大切に。「お客様であり、モノづくりのヒントを教えてください」のナリ。生の声は宝物です」と松尾社長は話す。IT活用の出発点もここにあった。

コールセンターに電話が入った

システム設計を内製する体制に変更。まったく新しいコンセプトでシステムを刷新した。

IT推進室の北口政浩氏は次のように説明する。

「第二次、第三次のシステムは、今の困りごとに対応する機能は実装されたものの、望んだ姿とかい離がありました。私もかつてITベンダーに勤務していて、もっと経営の深いところに入り込んで中長期的に事業を伸ばせるシステムを作りたいと思っていたので、良いチャンスを得られました」

第四次システムが目指したのは、まずWebショップとCTIを連携させ、顧客の動向を総合的に分析し営業支援できることだ。「販売履歴に応じたグループ分

ダイヤ工業 「継続への積極進取」のIT活用

・創業時は「イ草のスリッパ」を製造

・コルセットを企画・開発 接骨院での販売ルートを確立

第一次システム 2000年

・CTIの活用による顧客満足度アップ
・Webショップ

第二次システム 2005年

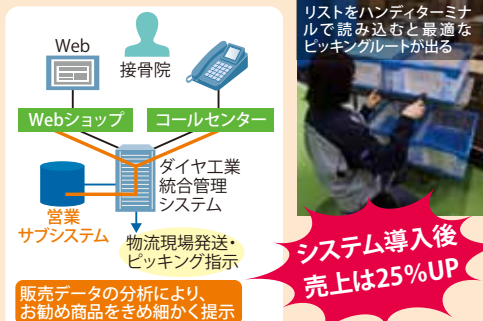
・物流業務のIT化とアウトソーシング

第三次システム 2009年

・通販システムと連携する生産管理システム

大変革 第四次システム 2013年

・システムの内製化(社内でシステムデザインを行う)
・通販システム、Webショップを刷新
・営業サポート機能追加
・物流システム



システム導入後
売上は25%UP

第四次のIT化は北口氏をリーダーとして、社内でシステムデザインを行った。業務の中身をよく理解したうえでシステム化を進めたため、ダイヤ工業の課題解決にピッタリあったシステムを実現できた。

実は、北口氏は第一次システムの構築を依頼されたITベンダーの担当者だった。第三次システムに苦戦していた時、松尾社長との再会で入社し、自らも「やりたいと思っていた」経営戦略に沿ったIT化の推進者となった。



IT推進室
Vice Chief Engineer
北口 政浩氏
(ITコーディネータ)

システムにも商品にも AIの活用を検討中

そして北口氏は、今、AIの導入を検討中だと打ち明ける。

「コールセンターの会話をAIが聞き購買履歴と合わせて最適な提案をオペレータに提示できる仕組みを作りたい。お客様が何を求

複数の出荷分をまとめられるのでピッキングのスピードもアップ。効率化と正確さを同時に実現し、ミスはほとんどなくなった。システム導入後、売上は25%アップ。生産性の向上に伴い将来を見据えて従業員を採用し、現在は113名となっている。



会社概要

ダイヤ工業株式会社

岡山県岡山市南区古新田1125
●設立: 1963年
●従業員数: 113名
●事業内容: 医療用品の開発及び製造・販売
●URL: <https://www.daiyak.co.jp/>

骨盤や腰をサポートする独自開発のコルセットが人気。全国3万軒の接骨院との取引窓口であるコールセンター(下)



この「One to One」のおもてなしに顧客は驚嘆し、リピートが増加。ニーズにフィットする商品づくりを積み重ね、売上は順調に伸びていった。

システム導入当時、ダイヤ工業の従業員は34名だったが、数千万円 of IT投資を敢行した。

「バリバリの営業マンがいたら踏み切らなかったでしょう。当時、売上が下がり苦戦していたからこそです」と松尾社長は振り返る。

2回の失敗を経て システムの内製化を決意

その後、物流のIT化・アウトソーシング、通販システムと生産管理システムの連携と、大きなシステム改変を2回行ったが、残念ながら期待通りのものにならなかった。

そこでIT推進担当者を置き、



新商品開発への取り組み

「人工筋肉」のように、傷害を持つ方が自力で動作ができるアシスト製品のうち、筋肉の少しの動きに「意志」を感じとり、ものをつかむ作業用義手「Finch」(写真上)、空気圧人工筋肉で握力を支援する「PAG」(下)



めているか、人とAIの双方が推測できるのが理想です」さらに同社は、商品開発においても、新しいITを取り入れ始めている。

AIを使つて熟練職人の体の使い方を覚えさせ、着るとその動きができるパワースーツなど、発想はとどまるところを知らない。

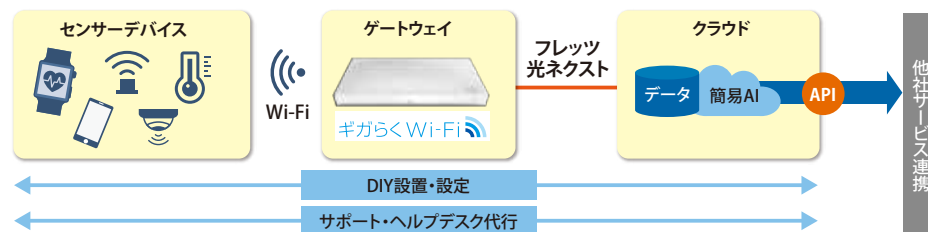
「イ草のスリッパを作っていた会社がAIと言う時代になりました。常に前に進み、社会から支持され続け、若い人が入社したくなる企業でありたい」

松尾社長は静かにこう語った。社会や顧客のニーズを先取りし革新的な商品をつくり出し続ける、そして、壁にぶつかったときほど挑戦する。ダイヤ工業の取り組みから、会社の継続に大切なことが見えてくる。

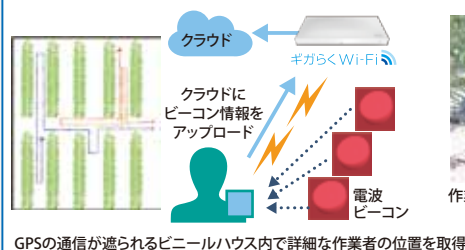


NTT東日本の目指す「かんたんIoT」のコンセプト

手軽にIoTを活用したい中小企業向けに「設置のしやすさ」「サポート付き」などを意識した誰もが簡単に導入できるパッケージサービス

**活用例(農業分野) アグリビジョン社における「かんたんIoT」のトライアル概要****1 生産活動の見える化(作業者)**

- 作業者が意識せずに作業情報を蓄積
- 作業者の動線を見える化し、業務標準化につなげる



Wi-Fi+センシング/モニタリングで情報を蓄積し、生産性を改善する

2 生育状況の見える化(作物)

- 生育状況をカメラで収集し蓄積、翌日の収穫量を予測
- 翌日の収穫人員数を予測し作業者の配置を最適化、パイヤーへの出荷数を通知



ここでは、農業分野の事例を2つ紹介しよう。
1つめは、山梨県山梨市、JAFフルーツ山梨、バイオベンチャー企業のシナプテック、NTT東日本が手を組んだプロジェクト「アグリノベーションLab」である。

果樹栽培の盛んな同地域でICTを活用し農家への様々な支援を行うことを目的としており、その手始めに約10軒の農家においてカメラやセンサーによる栽培現場のデータ収集・分析をスタートさせた。

もう1つは、農業を会社として営む農業生産法人のアグリビジョン(山梨県北杜市)である。トマトの栽培にIoTを導入するトライアルを開始し、①生産活動(作業)の見える化、②生育状況(作物)の見える化に着手した。

①では、GPSの通信が遮られるビニールハウス内に配置した電波ビーコンで詳細な作業者の位置を捕捉。Wi-Fiで収集したデータを動線にして分析し、業務の標準化、生産コスト削減に結びつけている。②では、収穫用の台車に設置したカメラで栽培中のトマトの画像を撮影・解析。翌日の収穫量予測の実現を目指し、トライアルに取り組んでいる。

Wi-Fi以外の通信手段にも対応してベストマッチを提供

これらトライアルでは、利用現場の通信手段としてWi-Fiを採用しつつ、その他のワイヤレスアクセス(LPWANなど)についてもニーズに合わせて対応することを視野に入れている。
IoTを手軽にスタートできる仕組みは導入の敷居を下げ、IoTによるビジネス機会も広がるだろう。



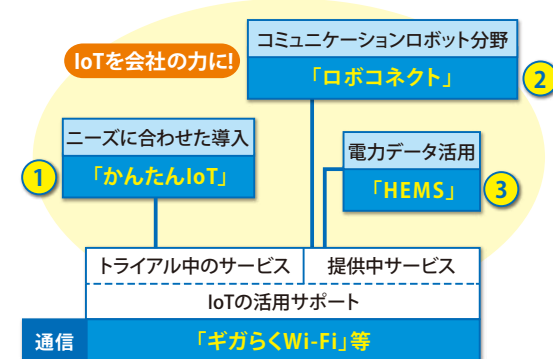
あらゆるモノをインターネットにつなぎ、データ活用によって様々な付加価値を生み出すIoT(Internet of Things)。人手不足と言われるなか、新しい仕組みで業務効率化や品質管理、顧客サービス向上等々を実現する方法として注目されている。
ただ、業種や業務により、また工場内や屋外など多様な環境での幅広い活用が想定されるがゆえに、「自社のビジネスにどう活かせるか」が課題となっている。

「できたらいいな」の実現に向けて! フィールドトライアルやロボット活用事例を紹介

1 多様な現場に入り一緒にトライアル IoTのパッケージ化を目指す「かんたんIoT」

中小企業向けに手軽なIoT活用を実現すべく、現在、各地でトライアルを展開しているのが「かんたんIoT」である。
NTT東日本の強みであるブロードバンドサービスを活かし、カメラ映像や音声など大容量データをやり取りするIoT用途もカ

バーし、設置のしやすさ、手厚いサポートを意識したパッケージ型サービスの提供を目指している。
具体的には、「フレッツ光ネクスト」など光アクセスサービスとサポート付き簡単オフィスWi-Fiサービス「ギガらくWi-Fi」を

NTT東日本のIoT活用サポート例

組み合わせたネットワーク環境に加え、サポートサービスもセットして業種業態のニーズに寄り添う仕組みを提供する予定だ。

先行する農業分野をはじめ多様な業種でトライアル

パートナーの協力を得て進めているトライアルは、
・ 農業分野でのカメラやセンサーを活用した作業管理や生育管理
・ 製造業における工場内の機器異常検知や稼働状況の見える化による改善活動支援
・ 畜産業での家畜の生体監視による早期異常の発見
・ ビル屋上の緑化事業における現場の遠隔監視や散水の自動制御など、多種多様。個々の利用現場にNTT東日本の担当者が足を運び、導入から運用までを全面的にサポートしており、IoTと実作業を結びつけ、活用するノウハウの蓄積にもつなげている。

お問い合わせ先

セキュリティマーケティング事務局

0120-528-117

op.seminar@ml.east.ntt.co.jp

K17-0155 [1705-1707]

<PR>

**ビジネスユースで簡単導入を実現
安心サポート付き「ギガらくWi-Fi」**

“安心・カンタン・すぐに使える”をキャッチフレーズとするNTT東日本のWi-Fiサービスが「ギガらくWi-Fi」である。

事前にヒアリングした内容に基づいてNTT東日本がアクセスポイントの設定を行うため、簡単な設置作業で利用開始できる。

アクセスポイント装置1台でパソコンやスマートフォンだけでなくカメラ、センサーを含む端末を50台(推奨)まで同時接続できる。

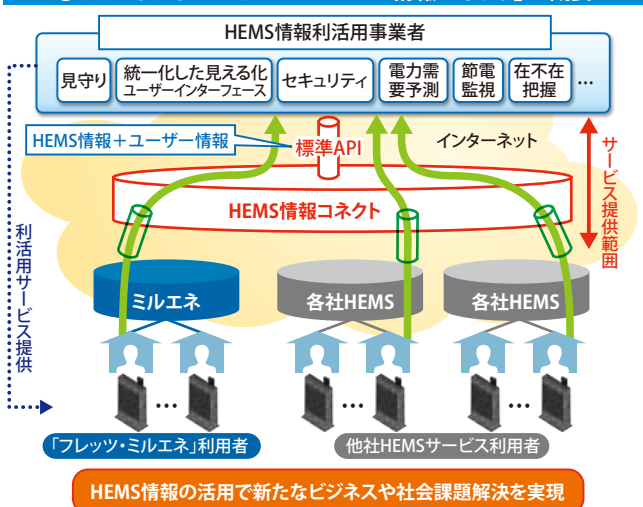
最新の無線規格IEEE802.11acに対応しているので、接続する端末を限定し、安心・安全な利用が可能。ヘルプデスクによる問い合わせ対応やトラブルサポートなど、安心できる支援体制を整備している。

広がる活用分野

①NTT東日本のHEMSサービス「フレッツ・ミルエネ」の概要



②プラットフォームサービス「HEMS情報コネク」の概要



HEMS情報の活用で新たなビジネスや社会課題解決を実現

一般家庭へのスマートメーターの普及が進み、HEMS(Home Energy Management System)——消費電力量を見える化し家電操作なども可能とする仕組みも、以前より手軽に利用できる環境が整ってきた。さらに、電力データ等を収集・分析し省エネ以外の付加価値を提供するなど、IoT領域での新サービスも可能になっている。

NTT東日本では光アクセスサービス接続用宅内機器のホームゲートウェイを活用したHEMSサービス「フレッツ・ミルエネ」を普及。加えて、電力データを活用するサービス事業者のサポートにも力を注いでいる。

ハウスメーカー、家電量販等多様な業種にて採用

3 HEMSをビジネスにどう活かすか
——「フレッツ・ミルエネ」「HEMS情報コネク」

「ロボコネク」は、Wi-Fiによるインターネット接続環境があれば、利用可能なサービスだ。基本機能は次の3点である。

多様なロボットや利用用途に対応可能なクラウドサービス

最近では、金融機関などの店頭で、ロボットが顧客への対応を代替する場合が見られる。人が対応する場合と同じように音声や動作でやり取りできるコミュニケーションロボットの活用が身近になってきた。

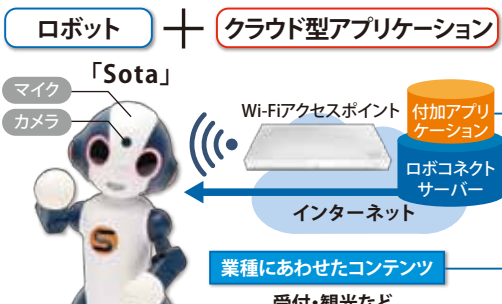
オフィスや店舗でロボットを活用

①コミュニケーション機能
②写真撮影機能
③遠隔対話機能
第一弾としてヴィストン社製のロボット「Sota(ソータ)」が、本サービスに対応。マイク、スピーカー、カメラなどを備えている。

介護施設でのレクリエーション支援サービス「Sotaレク」

「ロボコネク」は付加アプリケーションと連携させることでさらに様々な用途で活用可能だ。ロボットをオフィスの受付に設置し、来訪者を案内するといった使い方や、小売店の店頭で来店者対応や催事案内に活用するといった使い方も将来できるようになるかもしれない。

衆目を集めるためではなく、ヒューマンリソースを代替する目的での利用が真剣に検討されるようになってきたのである。

コミュニケーションロボットが身近に！
NTT東日本「ロボコネク」

*付加アプリケーションサービスのご利用には、サービス提供事業者との契約に加え、「ロボコネク」の契約が必要です。

各社のHEMSの情報を統合し
情報利活用の可能性を拡大

2016年10月には、電力データの活用をより強力に後押しする

機能、事前に設定した消費電力量を超えるメール通知する機能、外出先から家電を操作できる遠隔家電操作機能、加えて、温度・湿度等あらかじめ設定しておいた条件に合わせて家電を自動的にON/OFFするシナリオ機能も提供する。(各機能のご利用には、別途対応家電および機器購入等が必要となります)

フレッツ光以外のインターネット接続用回線でも利用でき、事業者が自社サービスと「フレッツ・ミルエネ」を容易に組み合わせられる。例えば、ある新電力会社は、「高圧小口」契約の基本料算定方法に着目し、基本料を抑えるためのデマンド通知機能を電気とセットで提供を予定している。

ハウスメーカーでは、後付けでも簡単に設置できる「フレッツ・ミルエネ」を新築物件へのローコストなスマートハウス提案や既築物件のリフォーム提案に活かしている。

また、省エネ家電の付加価値として消費電力量の見える化や遠隔家電制御をセットにして来店客に勧める家電量販店もある。

お問い合わせ先

NTT東日本

セキュリティマーケティング事務局

0120-528-117

op.seminar@ml.east.ntt.co.jp

URL <https://flets.com/hemsconnect/>

K17-0155 [1705-1707]

<PR>

お問い合わせ先

NTT東日本

セキュリティマーケティング事務局

0120-528-117

op.seminar@ml.east.ntt.co.jp

URL <https://flets.com/roboconnect/>

K17-0155 [1705-1707]

<PR>

ケースを開発・提供する事業者を募集しており、ラインナップの拡充を積極的に進めるといふ。「ロボットをこんな風に業務で使いたい」との発想があれば相談してみたいかがだろうか。

*「ロボコネク」および「Sotaレク」をご利用中にロボットと会話できる回数には上限があります。

支援情報 版

2017

5

表彰制度、補助金、プラスITフェア、 プラスITセミナー、鹿児島県よろず支援拠点など

記念講演会が行われた。

お問い合わせ先
NPO法人ITC中部
<https://itc-chubu.sakura.ne.jp/>

中小企業庁は、事業承継をきっかけとした、中小企業による経営革新や事業転換への挑戦を応援する「事業承継補助金」を実施する（従来の「第二創業補助金」をリニューアルし、新たに設置）。

(1) 地域経済に貢献する中小企業による、(2) 事業承継をきっかけとした、(3) 経営革新や事業転換などの新しい取り組みを支援する。定義される内容は次の通り。

(1) 地域への貢献
他社との取引関係や地域の需要に応える商品・サービスの提供、雇

事業承継補助金

新規事業、売上向上など、効率化にとどまらないIT活用を進めている企業を3年間で100社選定する経済産業省の「攻めのIT経営中小企業百選」。

3年目を迎えた2017年の受賞企業が間もなく発表される。

5月31日には東京で表彰式が執り行われる予定。

「攻めのIT経営中小企業百選」 2017年の発表迫る

の維持・創出によって地域に貢献している中小企業。

(2) 事業承継

平成27年4月1日から、補助事業期間完了日（最長平成29年12月31日）までの間に事業承継（代表者の交代）を行った、または行う。

(3) 新しい取り組みとは

・経営革新等
ビジネスモデルの転換（新商品、新分野への挑戦等）による市場創出、新市場開拓、新規設備導入（製造ラインのIT化、顧客管理システム刷新等）による生産性向上など

・事業転換
事業所の廃止や既存事業の集約・廃止 など

●補助内容

・補助率…3分の2
・補助上限
経営革新を行う場合 200万円

事業所の廃止や既存

事業の廃止・集約を伴う場合 500万円

●募集期間

平成29年6月上旬頃まで（予定）

お問い合わせ先
中小企業庁財務課
<http://sogyo-shokei.jp/>

連載 ネット社会との「お付き合い」術

No.32

セキュリティ対策は、 社内の意識・システムの両面から

ネットを使わずに仕事ができなくなっている今、すべての会社に問われているのがセキュリティ対策です。
まずは、対策に向けた現状の理解、その考え方を整理します。



有限会社ビジネス・サポートエム
(法人番号 700002013072)

代表取締役 御田村 瑞恵
www.e-bsm.jp

地銀のオンライン開発プロジェクト終了後、市町村・団体職員等の研修に携わり、アプリケーションやグループウェアの使い方、データ交換、ネットワーク管理などの研修講師を務める。
2003年からの国や地方公共団体等の電子化に伴い、国が定める特定認証局の電子認証セミナー講師、その傍ら、利用マニュアル等の作成や小規模経営者の「IT活用の困ったな」対応、一般ユーザー向けのPCスクール経営を行っている。

企業のICT投資は、ハードウェアなどを所有することから、初期投資のリスクを抑える利用へとシフトし、クラウドコンピューティングの活用が定着してきています。今では学生の頃から無料のストレージサービスを利用していたため、社会人になっても躊躇せずにクラウドサービスが使える新入社員も多く、場所にとらわれずに業務を行うテレワークやサテライトオフィス、さらにはインターネット上で仕事や業務を発注し、受注者を公募するクラウド・ソーシングも徐々に広がってきています。

●セキュリティ対策は不十分？

こうした中で、自社の情報セキュリティ対策について60%以上の企業が不十分だと認識しています。一方で「我が社にはそんな重要な情報はないから大丈夫だ」と考えている企業もありますが、企業には顧客情報、取引先情報、取引内容の情報、マイナンバーを含む従業員情報、設計図などの自社の機密情報、社外から取扱い注意として入手した情報など、さまざまな情報があります。

万が一、セキュリティ事故を起こしてしまつたら、企業の信頼が失われイメージダウン、顧客が離れ、営業機会を損失し、売上高が減少、そして取引停止となり、企業存続が危ぶまれ経営責任が問われるかもしれません。

しかし、どこか他人事であり、「自社に限ってそのようなことがあるはずはない」と思っていないでしょうか。

●不正ができない体制も大切

「標的型攻撃による情報流出など狙われない」と思っている、自社がサイバー攻撃の踏み台とされる可能性があります。

従業員がアクセスしたサイトや受信したメールの添付ファイルでランサムウェアに感染して、重要ファイルが暗号化され、高額なransom（身代金）を要求されるかもしれません。

またインターネットバンキングの偽サイトに引っかかり、会社の預金が不正送金されたり、自社のクレジットカードを不正利用され、大金を盗み取られるかもしれません。多額の資金を失ったと

き、企業活動はどうなるでしょう。社内では、従業員による不正な情報の持ち出しや、学生気分が抜けきらず個人アカウントのクラウドサービスや業務で利用しているかもしれません。そこには、潜在的なリスクが存在しているのです。

簡単に不正ができてしまう職場に際に御社ではどのように対応するのかを決めているでしょうか？

万が一、事故が起きてしまったとき、その責任を擦り付け合うようなことがあると、社内での信頼関係も崩れ、従業員の働く意識も低下しかねません。

脅威や攻撃はその手口をきちんと知ることが有効な対策のひとつになります。また、インターネットを安全に利用するための情報セキュリティ対策の必要性を認識し、対策を実施しましょう。同時に、ルールを守れなかった場合の措置を規定し、繰り返しの教育によって情報セキュリティ意識の向上に努めることが大切です。

プラスITセミナー開催予定(一部)

予定は変更になることがありますので申し込み時にご確認ください。

エリア	都道府県	商工会議所名	日程	種類	エリア	都道府県	商工会議所名	日程	種類
北海道	北海道	札幌	6月2日(金)	セミナー	近畿	大阪府	岸和田	6月6日(火)	セミナー
		小樽	8月2日(水)	セミナー				6月14日(水)	ワークショップ
			8月9日(水)	ワークショップ				6月22日(木)	ワークショップ
東北	福島県	郡山	8月23日(水)	ワークショップ		兵庫県	神戸	5月18日(木)	セミナー
			6月20日(火)	セミナー				6月6日(火)	ワークショップ
			8月22日(火)	ワークショップ				6月20日(火)	ワークショップ
北陸・甲信越	長野県	松本	9月26日(火)	ワークショップ				7月11日(火)	ワークショップ
			6月6日(火)	セミナー				7月27日(木)	ワークショップ
			7月4日(火)	ワークショップ		姫路		5月22日(月)	セミナー
		小諸	7月11日(火)	ワークショップ				6月15日(木)	ワークショップ
			5月24日(水)	セミナー				6月21日(水)	ワークショップ
		諏訪	6月6日(火)	ワークショップ	京都府	京都		7月3日(月)	セミナー
			6月8日(木)	ワークショップ				7月26日(水)	ワークショップ
			6月20日(火)	セミナー				7月27日(木)	ワークショップ
	新潟県	新潟	7月4日(火)	ワークショップ				8月4日(金)	ワークショップ
			7月13日(木)	ワークショップ				8月7日(月)	ワークショップ
			5月18日(木)	セミナー	滋賀県	八日市		7月24日(月)	セミナー
	福井県	武生	5月30日(火)	ワークショップ				9月14日(木)	ワークショップ
			6月9日(金)	ワークショップ				9月15日(金)	ワークショップ
	山梨県	甲府	6月1日(木)	セミナー	岡山県	岡山		6月8日(木)	セミナー
			6月21日(水)	セミナー				6月16日(金)	ワークショップ
			7月20日(木)	ワークショップ		広島県	福山	6月27日(火)	ワークショップ
関東	群馬県	高崎	5月18日(木)	セミナー				7月21日(金)	セミナー
			7月28日(金)	セミナー				7月26日(水)	ワークショップ
			8月9日(水)	ワークショップ	府中			7月31日(月)	ワークショップ
	栃木県	足利	5月25日(火)	セミナー				8月7日(月)	ワークショップ
			6月23日(金)	ワークショップ	島根県	松江		9月11日(月)	ワークショップ
			7月7日(金)	ワークショップ				5月16日(火)	セミナー
東海	茨城県	水戸	6月16日(金)	セミナー	山口県	宇部		6月5日(月)	ワークショップ
			6月21日(水)	ワークショップ				6月19日(月)	ワークショップ
			7月19日(水)	ワークショップ				6月26日(月)	ワークショップ
	東京都	青梅	6月30日(金)	セミナー		下関		7月3日(月)	ワークショップ
			7月4日(火)	ワークショップ				7月5日(水)	セミナー
			7月6日(木)	セミナー	柳井			7月12日(水)	ワークショップ
	神奈川県	藤沢	6月1日(木)	セミナー				7月27日(木)	セミナー
			8月1日(火)	ワークショップ	愛媛県	新居浜		8月31日(木)	ワークショップ
			9月13日(水)	ワークショップ				9月7日(木)	ワークショップ
	千葉県	千葉	6月1日(木)	セミナー				7月25日(火)	セミナー
			6月8日(木)	ワークショップ		小野田		9月19日(火)	ワークショップ
			6月27日(火)	ワークショップ				9月26日(火)	ワークショップ
	静岡県	浜松	5月11日(木)	セミナー				6月14日(水)	セミナー
九州・沖縄	愛知県	豊橋	6月29日(木)	セミナー	四国	徳島県	鳴門	6月29日(木)	ワークショップ
			9月21日(木)	ワークショップ				7月11日(火)	ワークショップ
			6月21日(水)	セミナー				5月24日(水)	セミナー
	岐阜県	多治見	7月18日(火)	ワークショップ		宇和島		8月26日(土)	ワークショップ
			6月29日(木)	セミナー				9月16日(土)	ワークショップ
			7月13日(木)	セミナー	徳島県	徳島		6月7日(水)	セミナー
	静岡県	松戸	7月20日(木)	セミナー				6月16日(金)	ワークショップ
			6月29日(木)	セミナー				6月21日(水)	ワークショップ
			8月23日(水)	ワークショップ	香川県	高松		7月5日(水)	セミナー
	愛知県	半田	8月30日(水)	ワークショップ				8月30日(水)	ワークショップ
			5月23日(火)	セミナー				9月27日(水)	ワークショップ
			6月22日(木)	ワークショップ	大分県	中津		6月30日(金)	セミナー
		豊橋	7月26日(水)	ワークショップ				7月12日(水)	セミナー
			5月24日(水)	セミナー	九州・沖縄	宮崎県	日南	7月18日(水)	ワークショップ
	静岡県	西尾	6月21日(水)	ワークショップ				7月24日(月)	ワークショップ
			6月22日(火)	ワークショップ				6月30日(金)	セミナー
			6月26日(月)	ワークショップ		宮崎		7月7日(金)	ワークショップ
	岐阜県	各務原	7月19日(月)	セミナー				7月19日(水)	ワークショップ
			6月5日(月)	セミナー				7月26日(水)	セミナー
	静岡県	多治見	6月21日(水)	セミナー	熊本県	八代		7月28日(金)	ワークショップ
			6月28日(水)	セミナー				8月2日(水)	ワークショップ
			6月19日(月)	セミナー	長崎県	長崎		6月14日(水)	セミナー
	静岡県	羽島	7月10日(月)	ワークショップ				6月21日(水)	ワークショップ
			7月21日(金)	ワークショップ				7月7日(金)	セミナー
			6月14日(水)	セミナー				8月25日(金)	ワークショップ
	静岡県	羽島	7月12日(水)	ワークショップ					
			7月19日(水)	ワークショップ					

*表は、2017年4月28日現在、日程が確定した地域。他の地域・日程でも開催が決まりますので、最新情報はプラスITセミナーのWebサイトでご確認ください。

<表に掲載した以外の開催予定地>

東北…弘前、盛岡、仙台、仙北、山形、白河、いわき
北陸・甲信越…富山、高岡
関東…鹿沼、真岡、東京、横須賀、横浜、柏、川口
東海…焼津、三島、名古屋、桑名
近畿…長浜、大阪、奈良、和歌山
中国…広島、津山、鳥取

四国…松山、高知
九州・沖縄…福岡、朝倉、佐賀、熊本、鹿児島、那覇

お問い合わせ先
プラスITセミナー 事務局 <http://www.it-seminar.go.jp/>

プラスITセミナー
の開催予定

中小企業庁では、プラスITフェ
アに続き、全国100地域にて、
IT活用の意義や具体的な活用方法を
学べる「プラスセミナー」を実施す

る。各地域の商工会議所が地域事情
を踏まえてプラスITセミナー事務
局と連携して開催する。

IT担当者向けの各種ワークシヨッ
プが予定されている。
どの地域のセミナーにも参加可能
である。

〈主催者挨拶〉
中小企業庁
次長
吉野恭司氏
(4月12日 広島会場) ★



〈来賓挨拶〉
日本商工会議所
IoT活用専門委員会
委員長
岩本敏男氏
(3月3日 東京会場)

オープン直後から多数の来場があった



(4月20日 名古屋会場)



(4月28日 札幌会場)

IT活用で効果を上げている企業への「業種別導入体験インタビュー」



ビック・ママ
守井嘉朗社長(左)
十一屋ボルト
佐藤兼昭会長(右)
聞き手:COMPASS
(4月5日 仙台会場)



ホテルハ木
明祥システム 豊岡宏社長(右)
(4月24日 金沢会場) ★



ITベンダーによる
出展ブース
(4月26日 大阪会場)

IT導入補助金の
セミナーは複数回開催
(4月14日 松山会場)



ITコーディネータによる相談ブース
(4月18日 那覇会場)



個人情報保護法に関するセミナー
(4月10日 熊本会場) ★

ITを導入するどのような経営
効果を期待できるのか、最新のIT
ツールで何ができるか。IT活用の
実際を気軽に体感できるイベント「プ
ラスITフェア」が3月〜4月に全
国10か所で開催された(中小企業庁
と地域経済産業局との共催)。総来
場者数は1万8000人に達し、
IT活用に対する期待が感じられた。
ステージプログラムでは、基調講
演に続きIT活用で効果を上げた企

業経営者へのインタビュやIT導
入補助金の紹介、さらに個人情報保
護法やIoT/AIなどの最新情
報も提供された。
また、ITベンダーがツールを紹
介する展示ブース、よろず支援拠
点やITコーディネータによる相談
ブース、支援機関からの情報提供
コーナーなども設けられ、一か所で
多彩な情報を入手できるユニークな
イベントであった。

IT導入補助金

中小企業が生産性を上げるための
IT導入費用を補助する「平成28年
度補正 サービス等生産性向上IT
導入支援事業」が実施されている。
現在は二次募集中で、6月30日まで
の申請期間となっている。

- (1) 補助対象になるもの
事業で認定された「IT
導入事業者」の製品・サ
ビスパッケージなど
- (2) 補助率
2/3以内(上限100
万円、下限20万円)

お問い合わせ先
IT導入補助金 事務局 <https://www.it-hojo.jp/>

よろず支援拠点訪問

鹿児島県よろず支援拠点（公益財団法人かごしま産業支援センター）

「伝え方の支援」で早期の成果センターの二次相談窓口としても機能

売上拡大、経営改善など、経営上の相談に幅広く対応すべく各都道府県に設置されているよろず支援拠点。

設置機関の従来からの支援メニューと連携を図り支援力を高めている例として、鹿児島県よろず支援拠点・かごしま産業支援センターの活動をレポートする。

店舗ディスプレイの改良などもカバ―

鹿児島県よろず支援拠点は、加藤剛氏をチーフコーディネーターに9名のコーディネーターが活躍。ITはもちろん、デザイン面や店舗ディスプレイの改善など、幅広い観点からの支援が特徴だ。鹿児島県は総面積が広く離島もあるので、サテライト窓口での相談も行っている。

加藤剛氏は支援の実際を次のように説明する。



鹿児島県よろず支援拠点
チーフコーディネーター 加藤剛氏（写真右）
コーディネーターの一人
IT分野担当の向江隆行氏（左）

「小売やサービス業など、支援の手が届きにくかった業種や、金融機関からの紹介による相談も増えています。また、各地域の支援機関ではカバーしにくい、難しい案件に対応するのがよろず支援拠点の役割でもあります」

心がけているのは、「最初の成果を早く出す」こと。店舗を持つ企業の場合は、コンセプトを整理し、陳列方法を変えることで売上が上昇するという。

加藤氏は、「店舗もホームページでの情報発信も、伝え方の変化、つまりコミュニケーション方法の改善がポイントです」と指摘する。

最近では、女性の起業を支援する機会も増えている（事例参照）。

IT関連の案件は、ITコーディネーターの資格を持つ向江隆行氏が担当。Web制作やSEO対策、SNSなどネット活用支援のほか、システム開発やITツール導入支援も行っている。



かごしま産業支援センター
事務局長 成田昭浩氏（右）
総務情報課の皆さん 左から、主務 野村真由美氏、主事 本村理知子氏、情報企画官 長吉啓一氏

よろず支援拠点の設置機関であるかごしま産業支援センターでは、事業創出、地域資源活用、マーケティングや情報活用などの支援を展開している。

情報化支援の一環として情報会員制度を設けており、会員向けのホームページ作成費用を助成する事業（リニューアル、モバイル対応、ECサイト構築など）やITの「出前講座」は好評で、会員数も増加しているとのことだ。

また、内閣府が実施するプロフェッショナル人材戦略拠点もあり、プロフェッショナル人材のマッチングにより、人材不足への対応や事業承継などをサポートしている。

センターの支援メニューとよろず支援拠点の役割を活かしながら、幅広い業種を対象に「よろず支援拠点」が一次相談窓口となり、各部門が相談・連携しながら支援を進めている（かごしま産業支援センター）のが鹿児島県の特徴といえる。

「知」ってものうにはどうしたらいよう

産前産後に体にかかる負担を和らげる「マタニティ整体」Happinessを薩摩川内市の自宅で開業した萩原康代氏は、看護師から転身。育児の不安があっても相談できる相手がない女性たちに、自身の子育て経験を踏まえたアドバイスができることにもやりがいを感じている。

ただ、ブログやFacebookで情報発信をしていたものの、「友達までしか広がらない」。チラシのポスティングも手ごたえを得られなかった。友人や商工会議所に悩みを話し紹介されたのが、鹿児島県よろず支援拠点（週一回、薩摩川内市でサテライト相談所を開設）だった。

「困っていることはなんですか」といろいろ聞いてくださり、自分にはない発想もいただきました。ITには疎かったですが、デザイン



完成したホームページ



マタニティ整体
薩摩川内店 Happiness
代表 萩原康代氏

ナーやプログラマーがいっしょやると聞きホームページをお願いしようと思いましたが（萩原氏）

ブログやFacebookの情報基盤となるホームページづくりをよろず支援拠点の支援で進めることとなった。担当コーディネーターの向江隆行氏は、「伝えたいことをたくさん書きたくなりがちですが、女性専用、産前産後など伝えるべきポイントを絞って整理し、基本デザインを提案しました」と説明する。

顧客の声などの更新は萩原氏自身が行えるようにし、2016年の年末から運用がスタート。顧客は徐々に増えており、「以前は電話で様子を聞く方が多かったのに比べ、今はWebをご覧になってから予約の電話をくださる方が増え、手ごたえを感じています。よろず支援拠点のことはもっとたくさんの方に知ってほしい」（萩原氏）とのことだ。

母親が自分の夢に向かって進む姿を3人の子どもたちに見せていきたいと笑顔で語った。

「開業してよかった」——集客の壁を乗り越える

マタニティ整体 Happiness <http://yasuhagi527.wixsite.com/happiness>

鹿児島県よろず支援拠点 支援事例

自分らしい特色のある店舗づくりに踏み出せた

Aroma Luna <https://coubic.com/aromaluna>

鹿児島市内にある店舗



Aroma Luna オーナーセラピスト 有村真由美氏

「セラピ―の仕事に目覚めて店舗を構え、商品をそろえました。そのあと、お店を出しただけではいけないと気づいて……」

穏やかに話す鹿児島市のAroma Luna（アロマ・ルナ）のオーナー有村真由美氏は、「直感的に起業した」という。

セラピストとしてマッサージやカウンスリングを行い、アロマ商品を販売する店舗には、幅広い年齢の女性が足を運ぶ。

2015年夏の開業後、どう店舗づくりをしていくか迷っていたときに、友人から鹿児島県よろず支援拠点を紹介された。「無料で相談のつてくれるなんて大丈夫？」と疑心暗鬼な有村氏を、友人は自身の相談の際に同席させてくれたそう。相談の様子を見て納得し、アドバイスを受けることにした。

主なテーマは店のコンセプトづくりと売り出し方。事業への思いを話すと、真剣に耳を傾けてくれた。その過程で、「一般にはこうすべき」と思い込んで、内にしまっていたことを、際立つ特徴として表に出すようアドバイスされ、視界が開けたという。

「月の満ち欠けのサイクルに沿った商品の提供やカウンスリングに興味がありました。ただ、いきなり言ったらなにか怪しまれるのではないかと躊躇していました。そこを『月の満ち欠けのAroma Lunaです』と打ち出していると背中を押してくださり、踏み切ることができました。普通のビジネス相談とは違うアドバイスだと感じました」

有村氏は店舗コンセプトが固まった時のことをこう振り返る。

店舗にはプラネタリウム機があり、星を見ながらマッサージやカウンスリングが受けられる。生き方に悩みを抱える女性は増えており、最近では占いの要素を含んだカウンスリングも人気だという。女性たちが癒される空間・時間は今後さらに求められるに違いない。「支援に満足しています」という有村氏は、現在はコンセプトをしっかりと伝えられるホームページ作りに取り掛かっている。

働き方改革は、人材採用にも効果！ これ一つで経営者も社員も一歩を踏み出せる

ITの力をうまく使って効率を上げ、働きやすい職場を作ると同時に顧客からの信頼を得る。この方法が普及しつつある今、何も行動を起こさないのは、リスクともいえる。

例えば、外出している際、社内にいる時と同様に取引先とメールを送受信したり、社内文書を利用したりできるだろうか。また、顧客先で担当者の最新スケジュールを確認し、次回の打ち合わせ日時をすぐ決められるだろうか。

空いた時間にメールの返信やスケジュール調整を迅速に行い、社内への報告も済ませて直行直帰で

ファイル共有や遠隔会議がいつでもどこでも可能に

最新のITツールを取りいれつつ、これ一つで働き方改革やスビード対応を実現できるのが、マイクロソフトの「Office 365」である。

サービスプランの1つ、Office 365 Business Premiumプランでは、WordやExcelなどのOffice系アプリケーション(ダウンロード型とクラウド利用の両方が可能)に加え、テレビ会議やグループウェア、チャットなど多様なクラウドサービスがセットされている。つまり、一つの契約で、役立つツールが一気に手に入るのだ。いくつか例を挙げよう。

- ・Officeアプリケーションはスマホからも利用可能
- ・文書をクラウドストレージに保

管し、いつでもどこでも共有(OneDrive for Business)

・オンライン会議の実施

(Skype for Business) (Exchange Online (スケジュール管理))

・SharePoint Online (情報共有/掲示板機能)

サービスは適宜追加されており、最近では、予約受付サイト作成と予約の管理ができる「Microsoft Bookings」をリリースした。来店予約を電話のみで受け付けていた企業には、朗報である。もちろん追加料金は必要ない。

活用事例も次々と出ている。社員の高齢化が課題となったある企業では、若手社員の採用に力を注ぐとともに、労働環境や就業規則の見直しに着手。Office 365を採用しビジネス情報やスケジュールの共有を進め、ライフス

事例記事はWebで詳しく紹介!
<https://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/koushihaken.aspx>

お問い合わせ先

Microsoft

日本マイクロソフト

- ・Office 365の活用事例
<https://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/koushihaken.aspx>
- ・Office 365のガイド
<https://www.microsoft.com/japan/msbc/Express/o365navi/>

知ってました? Office 365こんな機能も!

Teams

意見交換しやすいチャット機能

Booking

予約受付サイト作成 予約管理

〈企画について〉

Aさん 考えてみました

Bさん いいですね!

〈予約サイトの例〉

どんどん機能追加中!

おすすめプランは、Office 365 Business Premium

ページに合った勤務体制を選択できるようなした。その結果、若い人材が採用しやすくなり、社員の意識が高まったうえ、ボトムアップの動きも生まれているという。

働き方改革は人材を引き寄せる効果もある。その第一歩をOffice 365で始めよう。

2016年秋号の「働き方改革」特集は大きな反響を呼んだ。労働時間短縮や在宅勤務制度を打ち出す大企業が次々出てくる一方、中小企業からは「様子見」の反応も多くある。そもそも働き方改革は「言われたからやる」のではなく、経営上のメリットがあるから推奨されているはず。この点をいま一度整理していこう。

効果の出る「働き方改革」とクラウド活用



大きくクローズアップされている「働き方改革」。残業を重ねるこれまでの働き方から脱して、労働時間を減らし、多様な働き方を実現しようというものだ。他人事かそれとも是非取り組みたい重要事項か、企業ごとに捉え方には大きな差があることだろう。「現場を知らない人の机上の空論だ」という主張もある。

受注型のビジネスをしていれば、取引先の都合で急な残業や一時的な仕事の負荷は避けられないし、仕事を覚えるまでは「働く時間を長くすることで結果を出し貢献する」やり方も大切な。

こうした現状を踏まえたいうえで、今企業として再考すべきは、

- ①取引先のスピード要求に応える
- ②コストを削減する
- ③従業員の雇用を継続させる

④人材を採用しやすくする
などの経営効果を下支えする「働き方改革」である。

働きやすい職場は人材の採用で強さを発揮

社会の変化として受けとめておきたいのは④である。スマートフォンで情報を得、ITによるリアルタイムコミュニケーションが当たり前となった若年世代は、旧態依然とした仕事のやり方を避けやすい傾向がある。電子カルテの導入や職員間の情報共有を整備した病院が看護師の採用に成功した例や、eラーニングなどでも仕事を学べる仕組みをつくり、応募者が増えた企業もある。

働きやすさや柔軟性を備えた職場は、誰よりも従業員からの評価が高いのだ。

つまり、杓子定規に労働時間を短縮するのではなく、手を付けられるところから、効率化や働きやすさを実現していけばよいのである。そのツールとしてはIT、なかでも場所や時間にとらわれない情報活用が推進できるクラウドの活用は欠かせない。

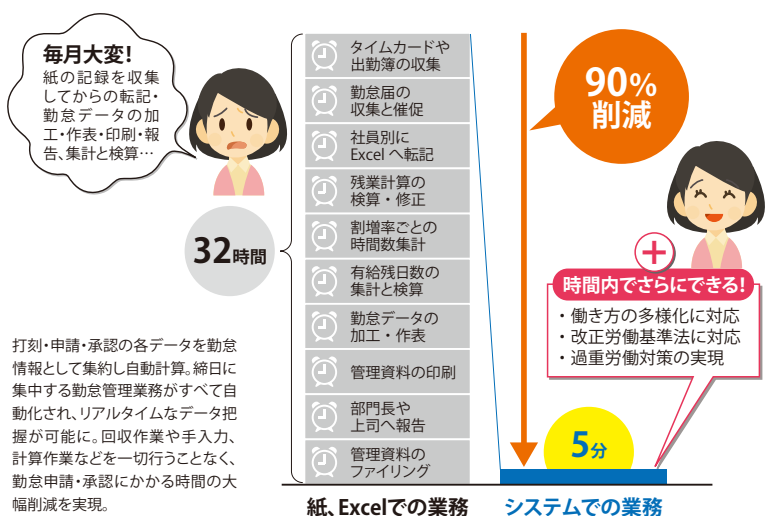
以前は「このやり方が当たり前」



だったことが、ITツールを使うと簡単にできるようになっていたりする。気づかないまま仕事の仕方を変えないでいると、いつの間にか時代に取り残され、高コストな会社になってしまうのだ。

例えば、メールのフォーマルさを飛び越えて、テーマごとに関係者が文字で意見を出し合えるチャットや、外出先でもスケジュールや文書を活用できるOffice系サービス、タイムカードの打刻データを自動集計して給与計算が簡単にできる勤怠・給与系のサービス、社内ですキャンした文書データを出張先で確認できる複合機など、枚挙にいとまがない。

自社でできる「働きやすさの環境整備」を、クラウドサービスを使ってデザインしてみたいものがある。



政府も力を込めて推進する「働き方改革」。長時間労働の是正や多様な勤務形態の導入などに着手する動きも出てきているが、「仕事が多く、帰りたくとも帰れない」という現実もある。機械的に残業禁止の措置を取れば、生産性の低下や売上の減少ひいては業績悪化につながるリスクもあるだろう。

働き方改革の第一歩は勤務時間の正確な把握 総務部門から仕事を効率化しよう

まずは固定業務の時間短縮 部門別の課題解決から

こうした中小企業の実情を踏まえ、基幹業務パッケージ「奉行シリーズ」を提供するオービックビジネスコンサルタント(OBC)は、まずは部門単位での業務効率化が大切と指摘する。そして働き方改革推進のポイントとして、「固定業務にかかる時間の削減」と「ミニマムにスタート」を挙げる。

前者は、労働時間を顧客対応などに費やす「変動業務」と事務・管理を中心とする「固定業務」に分け、変動業務の効率化で労働時間短縮を図るというもの。後者は、課題を洗い出しやすい小規模部門別に進め、ボトムアップで全社的な改革につなげていくことを示している。

具体的なソリューションは、低コストかつ迅速に導入・運用できるクラウド型の「OMSS+業務サービス」でラインナップを揃え

勤怠管理業務を自動化 リスクマネジメントにも一役

「OMSS+勤怠管理サービス」は、紙やExcelなどで行っていた勤怠管理業務——出勤簿や各種申請承認書類の回収・データ入力、集計計算、管理資料作成といった一連の作業を自動化。大幅な時間短縮と負荷軽減を実現する。

出勤打刻はパソコン、スマートフォン、タイムレコーダー、生体認証など多彩な方法が利用可能。勤務場所に応じた最適な端末を選択できるうえ、従業員は出張先や直行直帰時でも場所を問わずに打刻ができる。また、勤怠申請・承認もWeb上で行えるため、紙での手続きが不要になり、申請内容も自動集計される。

未打刻者、残業超過や遅刻・欠勤の多い従業員などに対する自動

お問い合わせ先

**株式会社オービック
ビジネスコンサルタント**

●ご相談窓口
0120-121-250

URL <http://www.obc.co.jp/k2/>

Focus クラウドの活用 ITツール紹介

外出先でも社内情報の活用が当たり前になった現在、「会社に届いたファクスを外出先で見られないか」との要望があるだろう。そこで使いこなすと便利なのが「ファクスクラウド転送」である。

会社へ届いたFAXを 外出先のスマホで見る！

インターネットに接続できる環境があれば、様々な情報を活用できるクラウドサービス。クラウドにつながる機器は、パソコンやタブレット・スマートフォンだけではない。スキヤナーやプリンターなど多機能をコンパクトな1台に搭載した複合機もクラウドにつながる事が可能になった。

ブラザーのビジネス向け複合機JUSTIOシリーズから、新品であるA3対応インクジェット複合機MFC-J6995CDWと、モノクロレーザー複合機MFC-L5755DWに搭載されているクラウド連携機能を紹介しよう。



**A3対応インクジェットカラー複合機
MFC-J6995CDW**

- ・A3フル対応のフラッグシップモデル
- ・A4カラー文書 約4.0円/枚、A4モノクロ文書 約0.9円/枚の低ランニングコスト
- ・インクジェットで約15万ページの高耐久を実現

社内でスキャンして クラウドのストレージへ

スキヤナーで読み取ったデータについては、自動的に社内のフォルダーに保存したり(「スキャンto ネットワーク」)、Eメール送



**モノクロレーザー複合機
MFC-L5755DW**

- ・モノクロプリントが約40枚/分
- ・ランニングコストは約2円/枚
- ・最大約50枚対応のADF

信したり(「スキャンto Eメール送信」)とやはり人手を介さずに共有できるが、MFC-J6995CDWでは、スキャンしたPDFやJPEGのデータをクラウド上のストレージに自動保存することも可能となっている(「スキャンtoクラウド」)。

カタログや書類、図面のデータをモバイル端末で参照するのも容易になった。

このように、社内共有はもちろん、クラウド連携により、コスト削減や効率化を実現するのである。

A3カラー対応のMFC-J6995CDWは実勢価格で9万円前後、プリント速度・毎分約40枚の高速モノクロレーザー複

ブラザーの複合機でクラウドとつながる

例) 会社へ届いた注文ファクスを外出先で見られる

クラウド保存やEメール転送ができる! ファクスクラウド転送



※MFC-J6995CDWとMFC-L5755DW以外の対応機種についてはお問い合わせください

お問い合わせ先

brother

**ブラザー販売株式会社
コールセンター**

TEL : 050-3786-8881

URL <http://www.brother.co.jp/product/printer/mfc/>

合機MFC-L5755DWが8万円前後と、多数の機能を搭載しているにも関わらず、検討しやすい価格になっている。

この2機種以外にも豊富なラインナップを揃えているのでWebサイトで確認して、ピッタリの1台を見つけてほしい。

成長を目指す 中小企業経営者のための FileMaker 活用術



(著者紹介)
株式会社ITC 総合研究所 代表取締役 谷藤氏(上)
取締役・庶民派ITコーディネータ 用松節子氏(下)



ITC 総合研究所はITコーディネータが集まって作った会社です。ITコーディネータはITと経営の両方の視点から中小企業のIT活用を最適化させることを使命としています。ITC 総合研究所は、泥臭い部分も含めて実現するまで責任を持つスタイルです。

～FileMakerによる システムの再構築(上)～

最近、FileMakerによるシステムの再構築(リニューアル)が増えてきました。たまたま頼まれることが多くなったという偶然的なことではなく、共通の要因が存在しているように感じます。時代的な背景として、経営環境面とFileMakerの歴史、政府の政策などによります。

また、FileMakerによるシステム再構築のパターンと、気を付けるべきことについて、2回にわけて述べていきます。

時代的な背景

まず、経営環境面では、バブル期を超えた景気回復により人手不足が深刻になっていることです。労働生産性を上げなければ業務が回らなくなり、生産性の低いままでは人も採用しにくくなります。2055年には中小企業の数は今の四分の一になるという予測も出ています。生き残る四分の一に入ろうとする中小企業経営者が自社の実態にあった生産性の向上に力を入れ始める真剣な姿を目にすることが多くなってきました。

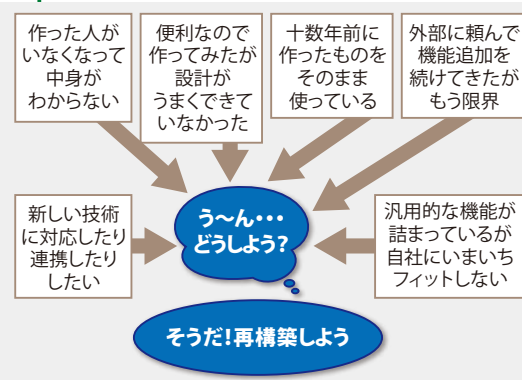
次にFileMakerの歴史的な側面では、従来から使い続けているユーザーと、比較的最近になってFileMakerが業務システムとして十分使えるようになって本格的に使い始めたユーザーがいます。詳しくは、各パターンの説明の中で述べていきます。

再構築のパターン

FileMakerでのシステム再構築は次のようなパターンに分けられます。

- ① 新しい技術に対応したり連携したりしたい
- ② 作った人がいなくなって中身が

●再構築のパターン(再構築に至るシーン)



- ③ 分らない
- ④ 便利なので作ってみたが設計がうまくできていなかった
- ⑤ 十数年前に作ったものをそのまま使っている
- ⑥ 外部に頼んで機能追加を続けてきたがもう限界

▲再構築の詳細▼

① 新技術対応・連携目的

昨今、モバイル端末でクラウド上のデータを共有できるなど、新しい技術を安価に利用できます。しかしながら、利用するには、今までの基幹システムに手を入れるのは時間もかかるしコストもかかり、技術の進歩が速いので、ま

た良いものが出てくるのではとの疑念がわいてきます。そこで、FileMakerの出番です。FileMakerはモバイル対応などの機能を外付けできるので、今の基幹システムをFileMakerとデータ連携して外付けにモバイル対応すれば、現行システムに手を入れることなくスピーディにデータの一元化が実現できます。

また、技術の進歩に対しては、新しく使いたい機能から実現して、少しずつ新システムに乗せ換えていけるので、今の時代にマッチしています。

② 作った人がいなくなった:

汎用ソフトでシステムを作った人が退職し改良できないことはよくあります。業務をよく知っている人が作るもので使いやすいシステムになるものの、システム開発上のコンセプトや説明書などが整備されていないのが普通です。そこで、この際、使いにくいところもまとめて直そうと再構築が浮上するケースもあります。

一見、無駄ですが、システムの再構築と同時に業務の仕方を整備できる良い機会になります。

(次回に続く)
*当連載は、Webにて毎月更新していきます。

事例

「MCP award 2016」 受賞企業の事例集刊行

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)は、モバイル機器/IoTの活用で優れた効果を出した企業を表彰する「MCP award」を実施している。このほど、2016年の受賞企業の事例を紹介する冊子「成功したモバイル/IoT活用事例」を発行。IoTを活用した新ビジネスや、救急医療に



貢献した受賞企業の取り組み、また介護や金融など業界ならではの課題を解決した事例も掲載されている。

お問い合わせ先
MCPC(モバイルコンピューティング推進
コンソーシアム) <http://www.mcpc-jp.org/>

セミナー

IT経営カンファレンス 各地で開催

地域のITコーディネータ組織が主催しITコーディネータ協会が後援するIT経営カンファレンスが、1〜3月に各地域で開催された。

2月18日に一般社団法人みちのくIT経営支援センターの主催にて仙台で行われた講演会では、宮城県のIT産業の復興、企業が業績を伸ばすためにICTを活用した事例、活用時のリスクと対策について情報提供がなされた。

多くの来場者でにぎわった



宮城県のIT産業復興についての講演

*写真提供 みちのくIT経営支援センター

COMPASSの Webサイトリニューアル

COMPASSのWebサイトが「COMPASS ONLINE」としてリニューアルしました。

本誌情報はもちろん、Webオリジナル記事や最新の情報をお届けします。

読者メール会員の方のみが見られるオリジナルコンテンツも用意します!



<https://www.compass-it.jp/>

読者アンケート・資料請求 Webサイトで受け付け中

2017年7月5日まで

COMPASSサイトのトップページボタンからどうぞ

<https://www.compass-it.jp/questionnaires/>

図書券500円
進呈

エッセイ あいていのある職場日記

世中 渉(よのなか・わたる)

著者プロフィール:メーカーに入社29年目の元営業職。
出世はおまけと割り切りつつも、上司と部下に挟まれて迷い多き日々を送っている中年風中間管理職。



「商売繁盛」

こう見えて(大半の読者の方には見えていないが…)、私は営業職である。

とはいえ、プロフィールにもある通り「元」営業職なので直接売ったりはしていない。

ものは売ってないが油は売っている。油は売っているが媚は売っていない。そんな元営業職である。

そんな私だが、商売とは一切関係ない、とある地方の「そうめん」を大量に売っている。

「売っている」と書くけど儲けているように見えるが、商売ではなく紹介という感じで、手配の仲介をしているだけなので一切儲かっていない。原価そのままにボランティア感覚で知り合いなどに紹介しているだけである。

なんでそんなことを始めたのかというと、元々は知り合いからお中元でいただいていたものを「ぜひ紹介して」と送り主から頼まれ、だんだん製造元と直接やり取りするようになって今や何を生業にして生きているのか分からないような状況になっている

わけだが、とにかく一度食べればそのうまさに納得するし、まとめて買えばかなり安いので積極的に紹介しなくても毎年かなりの物量が売れるようになった。

儲かってないので、COMPASS誌に広告掲載するわけにもいかないが…。

このご時勢にクチコミだけで商売し続けるそうめん屋。ウェブでも立ち上げれば私ごときに頼まずともたくさん売れると思うのだが、面倒なのか、儲ける気がないのか…。

っと、すっかり暑くなってきたので今年もそろそろ注文しないとな。

何を隠そう、我が家が一番のビッグユーザーなのである。

クラウドなら奉行10

今や企業の業務においてもクラウド活用が浸透してきました。
奉行10シリーズは、最新の技術と安心の実績で
お客様に最適なクラウド活用をご提供します。

クラウドベンダー
対応実績
国内No.1
(2016年11月当社調べ)

パートナー
全国**3,000**社の
販売体制
(2016年11月現在)

顧客満足度
3年連続
No.1^{*}

※日経コンピュータ 2016年9月15日号 顧客満足度調査2016-2017 ERP部門第1位

奉行10がご提供する**3**つのメリット

メリット**1**

様々なクラウド
環境で利用できる

メリット**2**

必要な業務だけ
選べる

メリット**3**

環境変化に
常に対応し続ける

IT経営マガジン COMPASS

2017年夏号

第15巻第2号
2017年5月15日発行(非売品)

◆発行人
土岡正純

◆編集人
石原由美子

◆企画・編集
大谷聖治
松森陽子
竹内和佳子

◆イラスト
朝倉千夏
金巻龍平

◆デザイン・制作
株式会社リッククリエイト
小幡一之

◆本文DTP制作・印刷・製本
壮光社印刷株式会社

◆発行所
株式会社リックテレコム
〒113-0034
東京都文京区湯島3-7-7 リックビル

◆お問い合わせ、読者登録先
COMPASS編集企画室
TEL : 03-3834-8059
URL : <https://www.compass-it.jp/>

本誌記事の無断転用・転載を
禁じます。

「COMPASS」について

「COMPASS」は中堅・中小企業向けに使いやすい製品・サービスを提供している企業のご協力により発行しております。

- 一般企業1社につき1冊までは、無料でお読みいただけます(お手もとまでお届けします)。
 - 発行は年4回(2月、5月、8月、11月)の5日です(都合により若干変動します)。
- ※セミナー利用等におけるまとまった部数(有料)にも対応させていただきます。

- 読者登録のお申し込みは、下記Webサイトで受け付けております。
送付先変更、送付中止はEメール(compass@ric.co.jp)までどうぞ

<https://www.compass-it.jp/>

資料請求・読者アンケートへの回答もこちらからどうぞ!

COMPASSのFacebookページで情報発信中。
「いいね!」をどうぞ!

<https://www.facebook.com/compassnetwork/>

読者の皆様へのお知らせ

メールアドレスの登録はお済みですか?

Webサイト「COMPASS ONLINE」では、
メールアドレスとパスワードによるログインにて、

さらに役立つ情報、連載

デジタル冊子、事例記事の詳しい情報を

読者会員の方だけにお届けします。

大事な情報を逃さないために、本誌Webサイト右上のバナーより、
メールアドレスの登録をお願いいたします。

Q:メールを登録しているかどうかわからないのですが…

A:5月17日にCOMPASSから送信されるメールが届くかどうかチェックをお願いします。
届かない方は、迷惑メールフォルダーにメールが分類されていないことを確認いただいた後、
COMPASSのWebサイトからご登録をお願いいたします。

※メールアドレスのご登録がない方には、COMPASS冊子をお送りできない場合がございます。

[COMPASS] コンパスは羅針盤・指針を意味しています。本誌をIT導入の指針としてご利用いただけることを目指しています

編集後記

自宅のパソコンを買い替えようと思いつつ、その一歩をなかなか踏み出せないでいます。
今の機種を購入して4年弱経つので、そろそろ更新時期なのだと思います。Windowsを8から10へと無償でアップデートして以降、動作がどんどん遅くなっていて煩わしさを感じています。メールの文字化けにも悩まされ続け、「エンコード2回変更」という解決策を繰り返すようになったのですが、改めてスペックを確認すると、性能的にはまだ現役で使えそうにも思えるのです。もしかすると、長く使っていることに飽きて、私の物欲、購買欲がすぐぐられているだけなのかもしれません。ひとまず「重たいパソコンを高速化する方法」をネット調べて手を尽くしてみても、それでもダメなら買い替えるという方針に変更することにします。(大谷)

宅配サービス最大手の会社が、ネット通販の利用増と人手不足などを理由に、料金の値上げと引き受ける荷物の抑制を決定しました。
現在は宅配ボックスのあるマンションに住んでおり、不在時にも荷物の受け取りをすることができず、2年前までは少し申し込みにくいと感じながら、再配達をお願いしてはいました。仕事とはいえ嫌な顔一つせずに、連絡をしてすぐに再配達してくれるドライバーさんに、日本のサービスの質の高さを感じます。それも変革の時期が来たようですね。

今後、希望の場所まで無人運転の配達車が配達に来てくれるというオンデマンド配達サービスが実験的に実施されるとのこと。増々深刻化していく人手不足の時代には、もっともっとこうしたIoTなど新しい技術を使った夢のようなサービスが開発されていくのでしょうか。(竹内)

4月は、中小企業庁主催「プラスITフェア」にて全国8か所に伺いました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました。事務局の方々はもちろん、地域の専門家の皆様・企業の皆様の多大なるお力があったからこそ開催。その重みとパワーを感じた1か月でした。
印象的だったのは、タレントさんが司会をされたステージプログラムの直後に私たちの出番があったとき。お客さんがまばらになり開始時は「あれ!」だったのですが、進むうちにどんどんと観覧の方が増えてきて、登壇された経営者の体験談に耳を傾けてくださいました。焦らず、あきらめず、拗ねず(笑)、今できることに力を注ぐって大事ですね。
そして今回、私の旅の相棒となったのが、ダイヤ工業さんの腰用ベルト「リアアツイストスリム」。腰痛を回避し、穏やかな道中をありがとうございました。(石原)